

IIFT

研究検査

2025年8月現在

検査概要

検査法 間接免疫蛍光法（IIFT）

検査項目

- 自己免疫性脳炎関連セット（Autoimmune Encephalitis Mosaic 6）
- 視神経炎疾患関連セット（NMOSD Screen 1）

材料 血清・髄液

必要量 300 μ L

保存方法 深凍結

報告形式

- Autoimmune Encephalitis Mosaic 6：（－），（±），（＋）（±）はCASPR2のみ
- NMOSD Screen 1*：血清：（－），10倍, 100倍以上
髄液：（－），1倍, 100倍以上

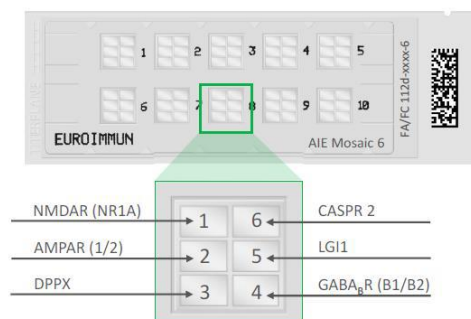
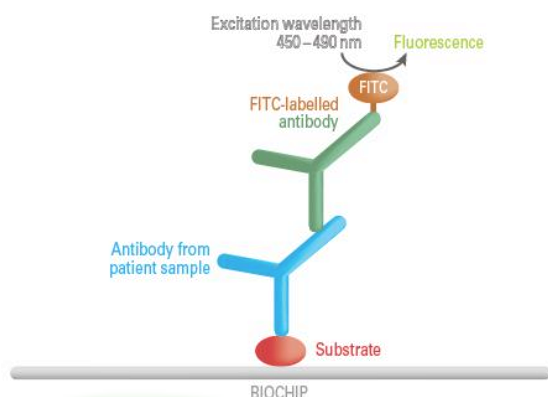
最低出検数 1検体

納期 検体受領後 2週間以内

* 抗体価（高力価、低力価）によって評価が異なるため、半定量を用いています

測定原理

最初のインキュベーションステップで、希釈したサンプルに含まれる特定の抗体が固相結合抗原に結合します。次のステップで、フルオレセイン（FITC）標識抗体（コンジュゲート）がサンプルの特定の抗体に結合します。励起波長により励起された複合体は蛍光を発し、蛍光顕微鏡で可視化されます。



複数のバイオチップを1つの反応フィールドにモザイク状に組み合わせたのBIOCHIPスライドにより、1アッセイで複数項目同時測定可能です

IIFTアッセイ項目

Autoimmune Encephalitis Mosaic 6

測定項目：NMDAR、CASPR2、LGI1、AMPA1/2、DPPX、GABA B receptor

自己免疫性脳炎に関連する自己抗体の測定を目的とした検査です。

自己免疫性脳炎は、自己免疫学的機序を介し、髄膜・脳・脊髄が障害される中枢神経疾患です。様々な種類の自己抗体が関与し、その抗体によって症状や経過が異なるため、抗体種の特定が重要であると言われています。

NMOSD Screen 1

測定項目：AQP4、MOG

視神経炎の原因である、視神経脊髄炎スペクトラム障害（NMOSD）とMOG抗体関連疾患（MOGAD）に関連する自己抗体の測定を目的とした検査です。

視神経脊髄炎スペクトラム障害（NMOSD）は、AQP4（アクアポリン4）に対する自己抗体、抗AQP4抗体が視神経、脊髄、脳などの中枢神経系に攻撃する事で炎症や損傷を引き起こす自己免疫疾患です。

MOG抗体関連疾患（MOGAD）は、MOG（ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク質）に対する自己抗体、抗MOG抗体によって引き起こされる中枢神経系の炎症性疾患の総称で、視神経炎、脳炎、脊髄炎などの症状を引き起こします。

測定施設：EUROIMMUN Japan 株式会社

お問い合わせ



KPSL
九州プロサーチLLP

〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1
九州プロサーチ有限責任事業組合
<https://kpsl.jp/>